

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190502336), 法人名 (医療法人社団NYC), 事業所名 (グループホームせせらぎ平岸), 所在地 (北海道札幌市豊平区平岸8条13丁目1-53), 自己評価作成日 (令和5年3月30日), 評価結果市町村受理日 (令和5年6月21日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022&kihon=true&JigvosvoCd=0190502336-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年5月30日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の尊厳を大切にしながら個々の生活ベースに合わせたケアを目指し、利用者様一人一人が自分らしく生活できる喜びを実感できる支援が出来る様努めている。また、職員の年齢層も幅広く協力体制が取れる様に連携し、隔たりの無いよう努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄駅やバス停から徒歩圏内の住宅街にある事業所は、近隣住宅に溶け込み、地域に密着した事業所の佇まいである。法人本部や系列の2事業所も周辺に在り、相互協力の体制が充実している。開設して18年、現法人移行を経て、当初からの理念「気まま、わがまま、いい加減」を受け継ぎ、さらに事業所独自の理念を掲げ、一節である「心と心が通い合うケア」を大切に、コロナ禍の利用者支援に臨んできている。家族との信頼関係作りを心掛け、電話や便りで暮らしの様子を細やかに報告し、面会は制約はあるが中断することなく、利用者との心の距離感を埋められるよう努めている。事業所内では、利用者の自由な過ごし方を尊重しながら、年中行事のイベントや食の変化で楽しみを工夫している。健康支援の体制も良く、終末期の支援も利用者、家族の希望に添えるよう取り組んでいる。職員は、明るく親身に利用者に向き合い、丁寧な意向の聞き取りや観察から、本人主体を軸足にした具体的な介護計画の下、その実践に取り組んでる。感染症収束を見据え、今後の外出や交流活動の再開が楽しい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation items for staff, user participation, and support.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を持ち、家庭的な雰囲気や大事にし、利用者様方が理念に基づき過ごせるよう努めている	長期勤務の職員が多く、系列事業所共通の運営理念と事業所独自の理念は、職員全員に深く浸透している。コロナ禍の現在、理念の文言にある「心と心が通い合うケア」の実践に、日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で控えている	地域と事業所双方が交流や行事を自粛しているが、町内情報は回覧板で確認している。近隣に住む町内会役員の方とは運営推進会議録の持参や散歩時に挨拶を交わすなどで関わりが続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お茶会等法人で地域に向けて発信する場を設けていたがコロナ渦で開催できていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月1度書面会議を実施しサービス向上に努めている	令和4年度は書面会議として定期に開催し、推進委員や家族に報告書を配布している。利用者状況や活動、感染症関連について記載し、地域から激励や労いの言葉、包括センターからは地域の介護事業所の運営情報を受け、運営に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の方に運営推進会議への参加や勉強会への外部講師の依頼など行っていたがコロナ渦の為に控えている	行政との窓口は管理者が行い、各種報告書類は郵送後に助言等を得て、介護保険業務や生活保護関係などもメールや電話で情報や意見交換を行っている。感染症対応では保健所と密に連携し、迅速な指導や備品配布を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や玄関の施錠等行っていない。身体拘束防止委員会や定期的な勉強会は情勢を考えて事業所内で行っている。マニュアル等は設置している	指針の下、身体拘束防止、対策委員会は2か月ごとに開催し、身体拘束が無いことを確認している。年2回の勉強会では、スピーチロック等の認識強化に向けて、自己チェックシートで職員は日常ケアの点検を行い、繰り返しの注意喚起に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での講習等を控えているが、カンファレンス等で常に注意を払い、話し合いを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際に利用している入居者もいるので必要なことは都度確認し学びになるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前やその都度不安や疑問を尋ね、必要であれば十分な説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には何気ない雑談の中からくみ取り、ケアプラン更新時にも意見等尋ね反映に努める	感染症対策の徹底の下、最小限の面会対応に取り組み、利用者の状況はこまめに電話で伝え、利用者・家族の安心を支えている。運営への家族の意見はなく、些細な疑問点や心配事も快く受け止め対応している。毎月の個別の通信は、利用者の担当職員が暮らしの様子や健康状況等を取りまとめ送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長による面談を行い反映に努めている	管理者は、職員個々の持ち味や考え方を大切に、意見交換が深まるよう配慮している。会議や業務、個人面談の中で職員の意見を聞き取り、ケアサービス以外では、掃除機等備品購入に至っている。コロナ禍で外部研修が滞っており、効果的な内部研修の実施検討をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に管理者が職員の話に耳を傾けられる職場環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2か月に一度全事業所合同の勉強会を開催し、意見交換などを行う。希望や推薦があれば外部研修の機会も設けている。(コロナの影響で実施していない)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会の実施や外部研修等で同業者と交流する機会を設け取り組みに努めている(区内の管理者連絡連絡会)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様、またはご家族様に見学、面談等をしていただき、入居前に話をして安心して生活できるような関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階から入居後の状況を常に報告し、ご家族の要望にも耳を傾け、良好な関係作りに努め、信頼関係を築く		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望をしっかりと傾聴し、出来る事と出来ない事の見極めを行い、時間をかけ話している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も同じメニューと一緒に食事をしたり、出来る事は一緒に行いともに暮らしている者同士の関係作りに努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子を毎月のお手紙等で報告し、来設時には様子を細かくご家族にお伝えしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(現在はコロナウイルスの影響で難しいが)ご家族や知人が気軽に来設できることや、外出外泊によって関係の継続を図っている(玄関先短時間の面会は状況を見て実施している)	制限付きの面会のほか、電話や賀状の取次ぎで、家族をはじめ友人や親せきなど、親しい人達との関わりが途切れないようにしている。寄り添う中で利用者の大切なエピソードの傾聴に努めている。訪問医師などは顔馴染みの安心感になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓テーブルやソファ、テレビ配置の工夫をし孤立しない様お茶やおやつ時間を皆で楽しく過ごせるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要や要望に応じていつでも対応できるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な利用者様には本人の意見意向を聞き把握するよう努めている。重度化されている利用者様については、ご家族との話し合い等で、出来るだけ本人本位になるように検討している	多くの利用者は意向を述べる事ができ、分かり易い問い掛けで具体的に聞き取るようにしている。困難な場合は表情や仕草などから好き嫌いを理解し、無理なくその人らしい過ごし方ができるよう、家族の情報も含め職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に入居前の情報提供や家族様にフェイスシートの記入や直接話を聞き把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務交代時の申し送りやバイタル測定の状態を把握し健全な一日が送れる様に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子をカンファレンスで検討し、事故報告や申し送りなどからもケアプランにつなげ、反映している	定期や状態の変化で、モニタリングやアセスメントを行い、利用者や家族の意向を主に、健康状態を踏まえた介護計画を作成している。計画は、ケアマネジャーと個別の担当職員を中心に全職員の気づきを盛り込み、実践可能で、かつ現状の本人にとって適切なケアになるよう立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやカンファレンスで情報を共有し介護支援専門員、計画作成者、管理者のもと作成を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の様子や訴え要望に対して出来る限り柔軟に対応するよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に特に活用しているという動きはない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の結果などはお手紙や電話でご家族に伝えている。また本人様、ご家族様の希望を第一にし、希望がある場合はかかりつけ医以外にも紹介などを行っている	従来からのかかりつけ医の受診を支援し、現在は月2回の訪問診療を全員が受け、主治医の紹介による外来受診は職員が同行している。家族が同行する場合は事前に利用者の状態を教え、スムーズな受診を支援している。週1回看護職員が配置され、24時間連絡できる安心の体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の看護師の出勤により連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や病院と連携し治療に向けた対応をしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の体調や状態を考え、ご家族様と話し合いを行いコミュニケーションを図っている。必要に応じて看取りの同意書交付も行う	契約時に、重度化やその先の看取りの考えを説明し、状態変化の状況で再度話し合いの場を設けている。関わりの中で得た本人の意向は、家族や主治医と共有している。医療関係者との密な連携と職員態を整え、希望に沿う終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等はあるが、訓練などは定期的に行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている	年2回、利用者参加の自主避難訓練を計画し、夜間の火災を想定して実施している。感染症対策により地域住民に参加依頼は控えているが、近隣の系列2事業所と連携体制を整えている。水や食料は適宜入れ替え補充し、防寒対策も講じている。	運営推進会議を活用し、地域との協力体制の再確認を期待する。また、日常の様々な場面を想定して非常時に適切に対応ができるよう訓練等の実施を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の自尊心を損なわない様な声かけで対応を行っている	人格の尊重をケアの基本として、会議や業務の中で共有化を図っている。自分が嫌と思う事はせず、気になる言葉は別な言葉で言い換える、申し送りは利用者が特定されない方法を取るなど、職員間で確認し実行に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望することが言えるような環境作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせられるよう心掛けているが、職員都合になっている事も時々ある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な利用者様には身だしなみに気を使えるよう支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベントやお誕生日等は手作りの料理やケーキを提供している。食事の後片付けを一緒に行ったりしている。	職員作成の献立で、都度新鮮食材を購入している。利用者の好物や食べたいものを取り入れ、アレンジしたり調理法を変更し、美味しく食べられるよう個別に対応している。誕生日はリクエスト料理で、季節行事などでも楽しみの食事を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量に気を付けながら好みの飲み物を提供するようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけで口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本として、間隔をみながら声掛けの工夫をしながら取り組んでいる	トイレでの排泄を基本に、見守りや誘導、二人介助やベッド上と、個別に応じた自立を支援している。夜間のみポータブルトイレを使用する人もいる。失敗時はプライドや羞恥心に十分配慮し、布下着から衛生用品の使用に移行する場合も気持ちに沿い、上手に誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量を気にしながら状況に応じて下剤等を使用しながら対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の体調や気分に合わせて入浴を行っている	毎日入浴を準備し、希望や状態を把握して毎朝入浴される利用者もいる。多くの場合は中2日を置いての入浴であり、同性介助やシャワー浴、熱めの湯など、希望に応じた保清に努めている。入浴時は、本人の話したい事をゆっくり聞く時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースに合わせて安楽に生活できるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬剤師と連携を図り、スタッフ同士でも服薬前後の確認や管理を徹底するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の軽作業や利用者同士の談笑やコミュニケーションが取れる様努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば買い物や散歩へ行くように努めている。(情勢を考えて現在は控えている)	現在、外出を希望する利用者はいないが、日光浴や周辺の散歩、菜園で野菜の収穫など、日常の中で外気に触れている。感染症収束を見据え、今後は家族との外出や外食も視野に入れて支援する方向にある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と話し合いの元所持している方もいらっしゃるが、居室内で紛失する等難しいケースもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度で対応・支援を行いご家族様にも協力いただいている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけや利用者様の訴えにて温度調整を行っている	共用空間では、気になる刺激に配慮し、室温や湿度、朝陽の強さもその都度調整して。日中は居間や居室で寛ぐ人とそれぞれだが、職員は利用者の意向に沿い、落ち着ける場所で自由に過ごせるように見守っている。季節飾りや貼り絵のモチーフなど、利用者と一緒に制作し、居心地の良い環境を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置や座席の工夫を行う、トラブルがあった際は席替え等で対応している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に出来るだけ馴染みの物を持参して頂き、居心地の良い空間で過ごせるように努めている	それぞれの居室には、馴染みの家具類、テレビや冷蔵庫、大切な仏壇等が置かれてある。趣味道具や本なども持ち込まれており、居室での時間が好きな物に囲まれ、できる限り入居以前の生活が続けられるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事の見極め、支援を行い安心して生活できるよう支援している		